

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-24	戦略プラン	○協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	古澤
				内線	1782		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-01-01	荒川ふるさと文化館管理費					
	01-02-01	荒川ふるさと文化館一般運営費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成		10年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例		
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	常設展示や企画展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連等の事業、情報提供等を行うための施設維持管理と管理運営を行い、区民の生涯学習の振興並びに荒川区における教育、学術及び文化の発展に寄与する。						
対象者等	区民全般・荒川ふるさと文化館利用者等（共有区分 南千住図書館利用者）						
内容	<p>【主な所轄事業】</p> <p>①荒川区に係る考古、歴史、民俗等資料の収集及び保存                  ②常設展示及び特別展示事業(企画展等)                  ③資料に係る専門的な調査研究                  ④文化財の保存及び活用                  ⑤郷土学習のレファレンス(資料紹介や学習アドバイス、団体見学対応等)                  ⑥教育、学術及び文化の振興に関する事業(各種講座)                  ⑦伝統技術の保護と育成(荒川学校職人教室・伝統技術展、荒川区伝統工芸技術継承者育成事業等)</p> <p>○平成28年度は、郷土展示室のリニューアルにより、伝統工芸技術展示コーナーを新たに整備する</p>						
経過	<p>【所在地】荒川区南千住6-63-1(南千住図書館と併設)【土地面積】2,723.96㎡                  【建物面積】1,499.89㎡【延床面積】5,720.69㎡(文化館2,584.59㎡、図書館2,686.1㎡)                  【構造】鉄筋コンクリート地上4階、地下1階                  【施設内容】地下1階：収蔵庫(261㎡)、視聴覚室(84㎡・45人)、研修室(53㎡・30人)、工作室(59㎡)                  1階：常設展示室(506㎡)、企画展示室(148㎡)、郷土学習室(84㎡) 2階：調査研究室(40㎡)                  4階：事務室(282㎡、図書館共用部分含む)工期】建物：平成7年10月19日～10年3月31日、常設展示：平成8年10月1日～10年3月31日                  【休館日】月曜日(月曜が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館)、館内整理日、年末年始(12月29日～1月4日)【入館料】100円(区内在住の障がい者とその介護者・65歳以上・中学生以下は無料)                  【開設】平成10年5月1日(開館時より南千住図書館と一括で施設管理委託)                  ①建物建設3,113,381,000円②展示製作委託319,300,000円③外構(駐車場・駐輪場等)167,023,500円</p>						
必要性	荒川の歴史や文化に関心を持ち、より深く理解してもらい、郷土愛を育むための施設運営を行う必要性は高い。また近年は千住宿・奥の細道関係の観光スポットとしても注目され、平成26年度開催の奥の細道サミットの関連事業の拠点の一つにもなっている。						
実施方法	( 2一部委託 ) ( 直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員 ) 清掃、警備、受付、エレベーター・電気工作物保守等は委託						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	50,538	49,488	52,712	57,659	80,960	51,678	78,652	
①決算額(28年度は見込み)	48,301	47,001	51,892	56,489	73,927	50,180	78,652	
②人件費等	6,104	7,757	6,444	1,953	5,794	4,618		
③減価償却費	2,034	2,177	2,517	1,014	2,438	2,048		
【事務分担量】(%)	70	70	78	30	75	60		
合計(①+②+③)	56,439	56,935	60,853	59,456	82,159	56,846	78,652	
特定財源	国							
	都							
	その他	670	741	642				
一般財源	55,769	56,194	60,211	59,456	82,159	56,846	78,652	
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	文化館利用者数(人)	19,053	23,702	18,709	19,981	20,771	23,022	—
	展示室観覧者数(人)	14,754	18,589	14,446	15,458	16,556	17,657	—

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
工事請負費	収蔵庫空調改修	22,542	報酬	学芸員報酬	16,021	報酬	学芸員報酬	16,070
委託料	建物維持管理業務委託等	21,013	共済費	学芸員社会保険料	2,163	共済費	学芸員社会保険料	2,126
報酬	学芸員報酬	15,924	旅費	郷土資料調査委旅費等	28	報償費	企画展講師謝礼等	20
需用費	光熱水費、消耗品購入費等	10,792	需用費	光熱水費、家屋修繕費等	10,246	旅費	郷土資料調査委旅費等	45
共済費	学芸員社会保険料	2,133	需用費	消耗品購入費等	576	需用費	光熱水費、家屋修繕費等	11,820
役務費	電話料金、郵便切手代等	843	役務費	電話料金、郵便切手代等	188	需用費	消耗品購入費等	848
備品購入費	資料等購入費	271	役務費	出土品トランクルーム保管料等	843	役務費	電話料金、樹木剪定等	237

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 文化館利用者数(人)	19,981	20,771	23,022	23,400	23,400	展示室観覧者＋郷土学習室利用者
	② 文化館展示室観覧者数(人)	15,458	16,556	17,657	18,200	18,200	
	③						

（問題点・課題 指標分析）	①開設後17年以上が経過し、空調、展示室検索機、監視カメラ、外扉の不具合、地階天井部分の水漏れ等、経年劣化により修繕が必要。また、展示室の特定天井改修の施工年度等を検討する必要がある。
	②27年度開催の南千住出身の画家・小松崎茂展は好評を博し来館者が大きく増加した。さらなる来館者の増加を図るため、展示内容やHPの充実、SNSの活用等、PR方法の改善を検討する。
他区の実 施状況	③ゆいの森開館に伴い、荒川ふるさと文化館と南千住図書館との運営について検討を要する。また、奥の細道矢立初めの地南千住と伝統工芸についての周知方法を検討する必要がある。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	経年劣化の進行など、修繕が必要な箇所を把握し、計画的に修繕を行っていく。	正面玄関の自動ドア修繕・誰でもトイレ手洗い場の自動水栓改修、地下1階視聴覚室のパーテーション、監視カメラの修繕等を行った。	27年度の対応を踏まえ、修繕対象箇所を調査し、継続して計画的に修繕していく。
②	HPのリニューアルを踏まえ、より見やすく分かりやすいコンテンツ作りを検討し、PR方法の改善を行っていく。	展示や講座開講情報等の情報更新を適切に実施した。	他の同様施設のHPを参考に、より親しみやすく分かりやすいコンテンツ作り、SNSの活用を図り、さらなる改善を目指す
③	南千住図書館と共に具体的な計画を策定し、郷土学習室の運営、常設展示の一部充実等を検討する。	27年度の運営については、毎月定例会を設けて検討した。また郷土学習室のリニューアルに向けて、関係団体等との調整も行った。	郷土学習室のリニューアルの実施に当たり、関係団体等と運営や事業内容の検討を行っていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	常設展示、企画展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連事業等の情報提供等を行う。

況議 （要旨） 会質 問状	H27・2月会議 荒川ふるさと文化館のあり方について
------------------------	----------------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-25	戦略プラン	○協働	●業務	○財務	○人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館事業推進費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	川上
							1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-02	荒川ふるさと文化館事業推進費					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 10年度		根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市					
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	03 伝統的文化の保存と継承					
目的	区民が、荒川ふるさと文化館の企画展を観覧したり、講座等の事業に参加したりすることにより、文化財保護への理解と郷土愛を深めるようにする。						
対象者等	区民全般、荒川ふるさと文化館来館者						
内容	<p>荒川ふるさと文化館の常設展示を補完するとともに、文化財普及・啓発のために下記の事業を行う。</p> <p>①企画展：平成26年度までは年2回、平成27年度以降は年1回開催。会期1～2か月間。企画展示室においてテーマに基づいた展示を行う。観覧料は条例により「1000円を超えない範囲で教育委員会が定める」とされているが、常設展示と合わせて100円で実施。</p> <p>②館蔵資料展：年1～2回開催。会期1～2か月間。館が所蔵している文化財、新たに購入した文化財等、テーマを設定し、展示を行う。</p> <p>③子ども向け講座：夏休み期間に[夏休み子ども博物館]として「リトル学芸員」「あらかわ職人道場」「勾玉づくり」「俳句を作ろう」等の体験学習を実施。</p> <p>④一般向け講座：「古文書講座（初級・中級）」「地域史講座」「史跡めぐり」等（講師は荒川ふるさと文化館学芸員）、「文化財講座」テーマを設定し様々な角度から荒川を探る講座（外部講師）を実施。</p> <p>⑤庁舎エントランス展示：平成20年度より荒川ブランドの伝統工芸品を展示。年4回展示替え。</p>						
経過	<p>平成25年度事業：企画展「東京「氷」物語」「番付から見るあらかわ」、パネル展「俳句を探（たず）ねる小さな旅－芭蕉・梅翁・一茶－」、館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の開催。・夏休み子ども博物館、七夕まつり、古文書講座、史跡めぐり、文化財講座等の開講。</p> <p>平成26年度事業：企画展「モノ・道具・暮らし展－昔の暮らしを調べてみよう－」「奥の細道・旅立ち展」（奥の細道千住あらかわサミット関連事業として開催）、パネル展「続・俳句を探（たず）ねる小さな旅－芭蕉・梅翁・一茶－」、館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の開催。・夏休み子ども博物館、七夕まつり、古文書講座、史跡めぐり、文化財講座等の開講。</p> <p>平成27年度事業：企画展「続・下町の空想画家 小松崎茂展」、パネル展「千住大橋のむかし～木橋時代～」、館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」「あらかわのたからもの」等の開催。・夏休み子ども博物館、七夕まつり、古文書講座、史跡めぐり、地域史講座、文化財講座等の開講。</p>						
必要性	収集した資料・情報を活用し、区民に郷土の歴史・文化に親しみ理解を深める機会を提供しており、また区の歴史・文化を資源として活用し区のPRに役立てており、必要性は高い。講座はコミュニティカレッジ連携講座にも位置づけられ、区民自らが郷土の歴史を探求する手法を学ぶ場となっている						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	8,438	7,408	7,021	6,885	7,302	4,826	6,142	
①決算額（28年度は見込み）	6,915	5,795	5,616	5,766	6,307	3,808	6,142	
②人件費等	13,991	15,491	15,067	12,693	12,399	7,867		
③減価償却費	7,844	9,486	9,681	9,126	8,128	6,997		
【事務分担当量】（%）	270	305	300	270	250	205		
合計（①+②+③）	28,750	30,772	30,364	27,585	26,834	18,672	6,142	
特定財源	国							
	都							
	その他	452	789	503	978			
	一般財源	28,298	29,983	29,861	26,607	26,834	18,672	6,142
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	企画展（回）	2	2	2	2	2	1	－
	館蔵資料展（回）	2	1	1	1	1	2	－

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	企画展図録・ポスター等	2,001	需用費	企画展図録・ポスター等	1,270	需用費	企画展図録・ポスター等	1,494
委託料	企画展展示等制作委託	1,748	委託料	企画展示等制作委託	1,048	委託料	企画展示等制作委託	1,955
役務費	企画展美術梱包輸送	1,728	役務費	企画展美術梱包輸送	861	役務費	企画展美術梱包輸送	1,615
報償費	企画展講演会謝礼等	347	報償費	企画展講演会謝礼等	352	報償費	企画展講演会謝礼等	416
旅費	企画展展示資料調査旅費	332	旅費	企画展展示資料調査旅費	146	旅費	企画展展示資料調査旅費	512
賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	151	賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	131	賃借料	展示品に係る賃借料・使用料	150

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 企画展入館者数(人)	4,927	5,684	5,111	5,000	5,000	26年度までは年2回、27年度以降は年1回開催
	② 各種事業延べ参加者数(人)	418	477	385	500	500	講座・講演会などの延参加者数
	③						

問題点・課題 (指標分析)	① 企画展、館蔵資料展については、テーマや内容により入館者数が大きく変動する。しかし28年度は郷土学習室のリニューアル等により、開催の回数が減るため、入館者の減少が予測される。このため区民のニーズを踏まえたテーマの設定や、質の高い展示を行い、リピーターを増やしていく必要がある。
	② 各種事業参加者が減少傾向にあるため、他課と調整し、文化館の特性を生かした事業を展開することが必要である。
他区の実況	( 実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区 )

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	奥の細道関連の資料収集に努め、展示の充実を図っていく。	企画展等を充実させるために、奥の細道（井筒屋庄兵衛板）等の俳句関連資料・錦絵を新たに購入した。	将来の展示内容の更新を見据え、資料の一層の充実を図る。また、SNSの活用を模索していく。
②	事業の魅力伝える対応策を実施し、参加者の増加につなげる。	平成27年度より、事業の周知にSNSを活用した。また、近隣の宿泊施設や学校施設を訪れポスターの掲示等を依頼した。	南千住図書館の特徴を生かした事業を具体的に検討する。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	継続	郷土の歴史や、文化に親しむ講座・展示等を提供する事業を実施する。

況 議 会 要 旨 問 状	H25・二定 荒川区にゆかりのある小松崎茂に関する展示について
---------------------------------	---------------------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-26	戦略プラン	○協働	●業務	○財務	○人事
事務事業名	奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	川上 内線 1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-02-03	奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		○それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成 19年度		根拠				
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区内の小学生が、「俳句」という日本伝統の文化を学び、国語能力向上につなげるようにする。また、南千住が松尾芭蕉の「奥の細道」旅立ちの地であることから、むすびの地である大垣市と、俳句の事業を通じて、住民同士の交流を深めることを目指す。						
対象者等	区内の小学生						
内容	1 夏休み子ども博物館俳句教室（夏休み 荒川ふるさと文化館） 2 大垣市「芭蕉蛤塚忌全国俳句大会」（10月 大垣市） 3 文化祭・俳句展示会ジュニア部門募集（展示11月 町屋文化センター） 4 大垣市「全国東西俳句相撲」（11月 大垣市 ※平成27年度から2月） 前年度子ども俳句相撲大会上位者を派遣（小学生2人×2組） 5 荒川区子ども俳句相撲大会・予選（1月 区内） 6 荒川区子ども俳句相撲大会千秋楽【本選】（3月 区内） 予選通過選手及び大垣市からの招待選手によるトーナメント						
経過	○19年度：第1回「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」を荒川ふるさと文化館企画展「千住大橋鉄橋化80周年」の関連事業として実施。以降20年度から年1回3月に単独事業として実施（22年度・23年度は震災の影響で中止）。 ○25年度：「全国東西俳句相撲」（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、横綱（優勝）・関脇（殊勲賞）を受賞。「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」日時：26年3月8日（土）、会場：素盞雄神社 大垣市から小学生3組6名を招待。 ○26年度：「全国東西俳句相撲」（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、大関賞（準優勝）・幕内賞を受賞。「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」奥の細道千住荒川サミット記念大会 日時：27年3月14日（土）、会場：日暮里サニーホール。大垣市から小学生3組6名を招待。 ○27年度：「全国東西俳句相撲」（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、大関賞（準優勝）を受賞。「奥の細道矢立初めの地子ども俳句相撲大会」日時：28年3月12日（土）、会場：素盞雄神社						
必要性	荒川区俳句のまち宣言を受けて、子どもたちが俳句文化に触れる機会を充実させ、南千住が奥の細道矢立初めの地であることを学び、郷土愛を育む事業として必要性が高い。また、俳句を通じて奥の細道の結びの地である大垣市との交流を深めることができる。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	1,227	1,171	684	835	854	951	993	
①決算額（28年度は見込み）	371	0	476	649	754	868	993	
②人件費等	4,761	0	2,492	4,665	9,638	6,050		
③減価償却費	2,179	0	1,646	3,549	6,665	4,437		
【事務分担量】（%）	75	0	51	105	205	130		
合計（①+②+③）	7,311	0	4,614	8,863	17,057	11,355	993	
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源	7,311	0	4,614	8,863	17,057	11,355	993	
実績の推移	事項名							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予選参加チーム数（組）	90	—	227	245	180	217	—	
（予選参加者数）	(180)	—	(254)	(490)	(360)	(434)	—	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	消耗品費等	318	需用費	消耗品等	186	需用費	消耗品等	288
委託料	会場設営委託	205	委託料	会場設営委託	396	委託料	会場設営委託	435
報償費	大会選者謝礼	102	報償費	大会選者謝礼	122	報償費	大会選者謝礼	107
旅費	大会・引率派遣旅費	74	旅費	大会・引率派遣旅費	74	旅費	大会・引率派遣旅費	78
負担金補助等	大会派遣参加費	51	負担金補助等	大会派遣参加費	63	負担金補助等	大会派遣参加費	58
役務費	賞状筆耕料	4	役務費	賞状筆耕料	27	役務費	賞状筆耕料	27

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
①	子ども俳句相撲大会予選参加者数(組)	245	180	217	250	250	2人一組で応募する
②							
③							

（問題点・課題 指標分析）	俳句を通して日本の伝統文化を学ぶことができ、また、国語能力の向上につながる。大垣市との関係も回を重ねるほどに深まっており、今後も引き続き小学校全校に参加を促し、教育委員会と連携して実施していくことが望ましい。
	他区の実況 (実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む 具体的な改善内容	平成27年度に実施した 改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	参加意欲を促すための工夫をし、参加校・参加者のさらなる増加を図る。	前年度より37組の参加者の増加があった。	参加者の増加を図るには、学校行事や季節的な配慮から開催日時、開催会場等について検討する必要がある。
②	サミットは終了したが、引き続き両課と連携を図り実施する。	文化交流推進課、観光振興課、地域の団体、素盞雄神社等と連携し事業を実施した。	さらに地域との連携を深め、周知を図り、観覧者の増加につなげる。
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	俳句という伝統文化を通じて、子どもたちの国語能力の向上を図るとともに、奥の細道旅立ちの地を区内外に発信する。

況議 （要旨） 会質 問状	・H27・2月会議 俳句宣言後の取組について
------------------------	------------------------

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-27	戦略プラン	●協働	○業務	○財務	○人事
事務事業名	文化財保護奨励費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	川上
							内線
							1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-03-01	文化財保護審議会					
	01-03-02	文化財保護奨励					
	01-03-04	映像記録保存					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成 47年度		根拠	荒川区文化財保護条例 文化財保護法			
終期設定	○有 ●無 年度		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	●計画 ○非計画			
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市					
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	03 伝統的文化の保存と継承					
目的	区民に伝えられる有形・無形の文化財を区民全体の財産として、その保存・活用のための必要な措置を講じ、区民の文化的向上に資するとともに、郷土文化の振興と発展に貢献する。						
対象者等	区民一般、文化財所有者・保持者・団体、文化財保護審議会委員、文化財保護推進員、土地・建築関係業者						
内容	①文化財保護審議会 教育委員会の諮問を受け答申する。27年度区登録2件・区指定2件 ②文化財保護推進員 文化財の保護と啓発活動をする非常勤職員 区民15名で構成 ・隔月推進員会の開催 ・区内文化財等の調査活動 ・文化財事業等の協力 ③史跡説明板 27年度既設の史跡説明板2基に英訳板を増設（28年6月1日現在 133基内英訳有2基） ④年中行事・民俗芸能映像記録保存 27年度「諏方神社の年中行事と江戸の里神楽」 ⑤埋蔵文化財の調査「文化財保護法」により、区内周知の包蔵地における土木工事等の届出に関する事務処理（都へ進達他）、確認調査立会い、本格調査の実施に関する調整事務を行う ⑥文化財保護奨励金等の交付 区登録・指定文化財の所有者、保持者及び団体に奨励金を交付。また区指定文化財の修理に対し補助金を交付。27年度養福寺仁王門修理に補助金を交付。 ⑦27年度より祭礼等伝統行事総合調査を開始。27年度は素盞雄神社の天王祭本祭の祭礼調査を実施						
経過	○主な経過 平成17年度：町屋四丁目実揚遺跡A発掘調査 平成19年度：旧三河島汚水処分場唧筒場国重文指定、旧三河島汚水処分場唧筒場国重文指定 平成21年度：旧千住製絨所煉瓦塀が日本紙通商株式会社より区に寄贈（補強工実施）、橋本佐内墓旧套堂復元工事実施 平成22年度：旧千住製絨所煉瓦環境整備工事・説明板設置 平成23年度：小塚原首切地蔵復元工事（第1・2期） 平成24年度：小塚原首切地蔵復元工事（第2期）、養福寺二天像修復工事（第1期） 平成25年度：養福寺二天像修復工事（第2期） 平成27年度：養福寺仁王門修復工事（第1期）、祭礼等伝統行事総合調査（素盞雄神社天王祭本祭） 平成28年度：養福寺の伝毘沙門天像が東京国立博物館で展示された（4月）						
必要性	荒川区の歴史・文化を知るうえで貴重な有形・無形の文化財を保護し、区の伝統・文化を次代に伝えるため、また区の文化資源として活用するため、必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員） 文化財保護審議会（文化財登録・指定の場合） ①教育委員会事務局内部調査 ②文化財保護審議会に諮問 ③審議・部会調査 ④答申 ⑤教育委員会決定 ⑥告示						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算額		24,095	11,465	14,416	11,670	12,730	17,001	14,185
①決算額（28年度は見込み）		19,226	7,378	11,767	9,034	9,911	13,032	14,185	
②人件費等		9,715	13,087	10,278	8,335	7,025	11,482		
③減価償却費		6,101	8,708	7,680	6,253	5,364	8,703		
【事務分担当量】（%）		210	280	238	185	165	255		
合計（①+②+③）		35,042	29,173	29,725	23,622	22,300	33,217	14,185	
特定財源の推移	国	遺跡発掘調査等事業費	1,600	1,250	582	1,172	1,159	1,250	
	都	遺跡発掘調査等事業費	9,093	625	291	586	580	625	
	その他		47	49	71	49	37	18	
	一般財源		24,302	27,249	28,781	21,815	20,524	31,324	14,185
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	文化財保護推進員会（回）	6	6	6	6	6	6	—	
	文化財保護審議会・部会（回）	8	8	8	8	6	6	—	
	指定・登録文化財件数（件）	6	6	4	6	4	4	—	
	埋蔵文化財調査支援委託（件）	9	7	8	10	16	21	—	

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	埋文調査・説明板設置等	5,411	報酬	推進員報酬	1,242	報酬	推進員報酬	1,242
負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	2,053	報酬	審議会委員報酬	645	報酬	審議会委員報酬	1,128
報酬	審議会委員・推進員報酬	1,907	報償費	祭礼調査謝礼	340	報償費	祭礼調査謝礼	1,264
需用費	消耗品費・物品修繕費等	325	旅費	祭礼調査旅費	8	旅費	審議会委員旅費	51
賃借料	煉瓦塀敷地借地料	166	旅費	審議会委員旅費	23	旅費	祭礼調査旅費	62
役務費	文化財登録書筆耕等	32	需用費	消耗品・史跡説明板修繕等	776	需用費	消耗品・史跡説明板修繕等	790
旅費	審議会委員旅費等	19	役務費	文化財登録書筆耕等	55	役務費	文化財登録書筆耕料等	89

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 文化財新規登録件数	4	2	2	2	2	総数 H24 : 257 H25 : 258 H26 : 258
	② 文化財新規指定件数	2	2	2	3	3	総数 H24 : 56 H25 : 57 H26 : 58
	③						

（問題点・課題 指標分析）	①登録文化財の候補は、寺社調査・区史編纂調査・石造物調査等で収集した情報から選定しており、建造物や近代遺産等の登録件数は少ないため、調査計画を作る必要がある。
	②伝統工芸技術の保持者について把握するための工夫を行い、登録して保存する必要がある。 ③急増する外国人観光客に対応するため史跡説明板に英語訳を設置進める必要がある。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	建造物や近代遺産等について資料を収集し、計画的に文化財として登録する。また、具体的な保存方法について検討する。	これまでの事業に加え、新たに祭礼等伝統行事等総合調査を開始。素盞雄神社天王祭本祭の祭礼調査を実施した。	祭礼等伝統行事等総合調査として、石浜神社の本祭及び素盞雄神社天王祭陰祭の祭礼調査を実施する。
②	伝統工芸技術保持者の情報について、区報やHP、荒川伝統工芸技術保存会や郷土史研究者等の協力を仰いで情報収集に努める。	荒川伝統工芸技術保存会等区民に呼びかけ、職人に関する情報を得て調査を実施した。	外国人観光客に、区の伝統工芸に対する取り組みを紹介するため、職人マップ英語版を作成し、区内外のホテル棟に配置する。
③	警察署、消防署と連携し、区内文化財に対する防犯、防火の強化に努める。	文化財の防犯に関する区内3警察署との合同会議を開催した。また、文化財の防犯、防火設備の設置状況の聞き取りを行った。	文化財の防犯防火対策を含めた現状確認と、情報交換に努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	区の有形・無形文化財を次代に伝えるとともに、区の文化資源として活用する。

況議 （要 旨） 会 質 問 状	
------------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-28	戦略プラン	○協働	●業務	○財務	○人事
事務事業名	文化財交流事業	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂牧
							1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）							
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）		○建設事業		○それ以外の継続事業		
開始年度	○昭和 ●平成 17年度		根拠	荒川区文化財保護条例 文化財保護法			
終期設定	○有 ●無		法令等				
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準		計画区分	○計画		●非計画	
行政評価事業体系	分野	V 文化創造都市					
	政策	09 伝統文化の継承と都市間交流の推進					
	施策	03 伝統的文化の保存と継承					
目的	荒川区や交流都市の文化財を通して、区民と交流都市との文化交流を深めることができるようにする。						
対象者等	区民一般、区外からの来訪者						
内容	<p>○荒川ふるさと文化館エントランス等において、荒川区と交流都市の文化財等をパネルを中心として紹介する。区内の史跡・文化財の中には、他の自治体に関係する文化財が数多くある。橋本左内の墓旧套堂、松尾芭蕉の句碑、大関・石川・宗・佐竹等大名屋敷跡は、福井・大垣・黒羽・対馬・秋田などと荒川区の歴史の関連を伝えるものである。これら文化財を通じてゆかりの自治体を紹介する。</p> <p>○25年度は、奥の細道千住あらかわサミットのプレイベントに関連し、特に奥の細道のルート上の交流都市について、パネル・観光パンフレットにより広く紹介した。サミット開催年度である26年度には、さらにサミット参加自治体に呼びかけパンフレット等の情報量を増やし、広く周知した。27年度も、エントランスの奥の細道サミットで交流を深めた関係団体のパンフレット等を配置する。</p>						
経過	<p>○平成17年12月、橋本佐内墓套堂が区に寄贈。19年度：文化館敷地内への移設を決定し、「橋本左内墓旧套堂」を文化財登録。20年度：套堂復元工事完成、記念セミナー実施（21年3月）。21年度：福井県から橋本左内像が区に寄贈、旧套堂内への橋本左内ブロンズ像設置セミナー実施（22年3月）。</p> <p>○22年度：三河島の山車人形と交流都市である潮来市の山車人形のパネル展を実施（22年3月～6月）</p> <p>○23年度：隅田川から見える富士山と筑波山を詠んだ区指定有形文化財亀田鵬齋の詩碑や、諏訪台からの筑波山眺望の変遷、校歌に筑波山を含む小中学校、つくば市の概要をパネルで紹介（24年3月～5月）</p> <p>○24年度：文化財交流事業を拡大し、企画展として他自治体等の山車人形を展示紹介</p> <p>○25年度：奥の細道サミットのプレイベントとして、パネル展「俳句を探（たず）ねる小さな旅－芭蕉・梅翁・一茶－」開催。サミットで交流を深めた関係団体の各種パンフレットを通年でエントランスに配置</p> <p>○26年度：「続・俳句を探（たず）ねる小さな旅－芭蕉・梅翁・一茶－」開催。</p>						
必要性	見直しを図る必要がある。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 ●常勤 ●非常勤 ○臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	456	456	0	0	0	0	0	
①決算額（28年度は見込み）	335	0	0	0	0	0	0	
②人件費等	2,738	1,543	1,209	705	1,955	1,378		
③減価償却費	1,307	778	581	507	1,626	1,024		
【事務分担量】（%）	45	25	18	15	50	30		
合計（①+②+③）	4,380	2,321	1,790	1,212	3,581	2,402	0	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	4,380	2,321	1,790	1,212	3,581	2,402	0	
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	観覧者数（人）	3,187	2,928	-	2,797	2,409	2,800	-

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費		0	需用費		0	需用費		0
委託料		0	委託料		0	委託料		0

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度見込み	目標値(28年度)	
①	パネル展観覧者数（人）	2,797	2,409	0	0	3,000	展示中の展示室観覧者＋郷土学習室利用者数
②							※24年度は企画展として実施
③							※27年度以降パネル展は実施しない

問題点・課題 （指標分析）	29年度オープン予定の伝統工芸コーナーと関連する事業を検討し、文化財交流事業の見直しを図る必要がある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区） 定期的な事業として実施している区は無い。
他区の実 施状況	

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	平成26年度奥の細道千住あらかわサミットを契機に、俳句文化の伝承も視野に入れたテーマを検討する。	奥の細道サミット以降実施している俳句文化交流のためのコーナーを設置し、サミット関連自治体の紹介をしている。	平成29年度オープン予定の伝統工芸コーナーと関連する事業を検討する。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
継続	改善・見直し	奥の細道サミットに関連する句碑や関係資料等、荒川区と交流都市の史跡・文化財をパネルで紹介し、交流都市との文化交流を深める。

況議 （要 会 質 問 状	
------------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成28年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-29	戦略プラン	○協働	●業務	○財務	○人事
事務事業名	江戸伝統技術	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	坂牧
							1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（28年度）	01-03-03	江戸伝統技術					
事務事業の種類	○新規事業（○28年度 ○27年度）			○建設事業		●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成		55年度	根拠			
終期設定	○有 ●無		年度	法令等			
実施基準	○法令基準内 ○都基準内 ●区独自基準			計画区分	●計画 ○非計画		
行政評価事業体系	分野	V	文化創造都市				
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	03	伝統的文化の保存と継承				
目的	江戸時代から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術と保持者の存在を広く区内外に周知する。区民が伝統工芸技術の素晴らしさに触れることにより、技術の保存・継承への理解を深めるとともに、伝統工芸技術保持者の技術継承の意欲促進を図る。						
対象者等	伝統工芸技術及び保持者、伝統技術保持者の継承者、伝統技術展来場者、職人体験道場参加者 伝統工芸技術記録映像視聴者、文化館展示観覧者、学校職人教室実施校児童						
内容	○あらかわの伝統技術展：区内の伝統技術保持者等が一堂に会して、作品の展示・技術の実演・来場者の体験コーナー等を行う（会場：荒川総合スポーツセンター）。 ○荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業：荒川区登録無形文化財保持者、指定無形文化財保持者及び荒川区伝統工芸技術保存会会員を対象に、その技術継承者育成のための手当を支給する。 ○学校職人教室：伝統工芸技術保持者が小学校に赴き、技術の実演・解説・児童の体験学習等を行う。 ○伝統工芸技術記録映像制作：指定無形文化財保持者の伝統工芸技術を記録する映像を制作。 ○伝統工芸品購入：指定無形文化財保持者の作品を購入（原則、記録映画で制作過程撮影した作品）。 ○あらかわ職人道場：夏休み子ども博物館の事業として、伝統工芸技術を体験できる教室を実施。						
経過	○あらかわの伝統技術展：昭和55年度より開催。平成27年度第36回（7月3日～5日）。 ○荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業：平成21年度より実施（28年4月現在：対象者9人。） ○あらかわ学校職人教室：昭和59年度より開催。平成19年度より全校で実施。 ○伝統工芸技術記録映画制作：昭和60年より実施。27年度：川俣頼三氏（桐たんす）／51本。 ○伝統工芸品購入：平成元年より購入。27年度購入品：桐たんす 累計／57点。 ○あらかわ職人道場：平成16年度試行実施し、17年度より予算化し本格実施。 ○平成28年5月、ウィーン市ドナウシュタット区で開催された交流20周年記念イベントで、若手職人によるデモンストレーション及びワークショップを実施。						
必要性	・伝統工芸技術の素晴らしさを区内外に紹介し、理解を深める貴重な機会となっている ・区の伝統工芸技術の保存・継承のために欠かせない事業である						
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 ○常勤 ○非常勤 ○臨時職員） 伝統技術展は荒川区・荒川区教育委員会・荒川区伝統工芸技術保存会の共催。技術展会場設営は業者委託。伝統工芸技術記録映像は業者委託により制作。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	36,954	41,998	33,686	29,589	31,873	33,150	36,422	
①決算額（28年度は見込み）	29,436	32,170	31,185	28,881	29,999	32,536	36,422	
②人件費等	11,354	16,109	14,403	13,958	11,832	9,495		
③減価償却費	5,955	8,553	8,229	9,971	8,290	6,997		
【事務分担当量】（%）	205	220	255	295	255	205		
合計（①+②+③）	46,745	56,832	53,817	52,810	50,121	49,028	36,422	
特定財源	国	2,791	0	0				
	都	1,155	0	0				
	その他	4	6	10				
	一般財源	42,795	56,826	53,807	52,810	50,121	49,028	36,422
実績の推移	事項名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	「伝統技術展」入場者数（人）	13,500	14,000	15,000	13,200	14,700	15,000	—
	「継承者育成事業」参加者数	9	11	11	9	9	10	—
	「学校職人教室」参加校数（校）	24	24	24	24	24	24	—
	伝統工芸記録映像（本）（）内累計	1(46)	1(47)	1(48)	1(49)	1(50)	1(51)	—

予算・決算の内訳								
平成26年度（決算）			平成27年度（決算）			平成28年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	匠育成支援事業補助金	12,800	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	15,772	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	17,040
委託料	技術展会場設営委託等	9,990	委託料	技術展会場設営委託等	10,371	委託料	技術展会場設営委託料等	12,199
報償費	伝統技術展謝礼学校職人教室謝礼	2,305	報償費	伝統技術展謝礼学校職人教室謝礼	2,420	報償費	伝統技術展謝礼学校職人教室謝礼	2,780
役務費	伝統技術展ポスター掲示等	1,745	役務費	伝統技術展ポスター掲示等	1,416	役務費	伝統技術展ポスター掲示等	1,545
備品購入費	伝統工芸品購入	1,296	備品購入費	伝統工芸品購入	651	備品購入費	伝統工芸品購入	265
使用料等	技術展会場使用料	985	使用料等	技術展会場使用料	985	使用料等	技術展会場使用料	1,044
需用費	技術展ポスター製作等	603	需用費	技術展ポスター製作等	634	需用費	技術展ポスター製作等	1,549

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		25年度	26年度	27年度	28年度 見込み	目標値 (28年度)	
標	① 伝統技術展入場者数	13,200	14,700	14,400	15,000	15,000	
	②						
	③						

（問題点・課題分析）	事業の周知を図るため、所管するホームページの内容を工夫し、PRの強化が必要である。伝統工芸コーナーで実施する事業との調整。
他区の実況	（実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区） ①伝統技術展は、他に文京・北・葛飾・江東・墨田・練馬・足立の各区で実施しているが、規模・業種・職人数において、基礎自治体の事業として最大級であり全国一である。②学校職人教室は全国で荒川区のみ。③伝統工芸技術継承者育成支援事業は、文化財保護事業として実施している自治体は全国で荒川区のみ。

問題点・課題の改善策			
	平成27年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度に実施した改善内容および評価	平成28年度以降に取り組む具体的な改善内容
①	東京オリンピック・パラリンピック開催時のおもてなしの基軸としての事業の進め方を検討する。	共催団体に協力を求め、SNSによりPRを実施した。	荒川ふるさと文化館のホームページの内容を工夫し充実を図る。また、SNSを活用して一層の周知を図る。
②			
③			

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
28年度	29年度	
推進	推進	荒川区の伝統工芸技術を区内外に紹介し、合わせて区民への関心や理解を促すとともに、小・中学校の伝統文化・地域学習を推進する。

況議 （要 旨） 問 状	
--------------------------	--